

## 2020年4月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2020年3月13日

上場会社名 フリービット株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 3843 URL <https://freebit.com/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 田中 伸明  
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員グループ経営管理本部長 (氏名) 和田 育子 TEL 03-5459-0522  
 四半期報告書提出予定日 2020年3月16日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2020年4月期第3四半期の連結業績（2019年5月1日～2020年1月31日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年4月期第3四半期	40,060	17.4	1,198	△26.4	1,113	△13.9	△238	—
2019年4月期第3四半期	34,118	18.2	1,628	68.5	1,294	150.7	△23	—

(注) 包括利益 2020年4月期第3四半期 143百万円 (△44.2%) 2019年4月期第3四半期 257百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年4月期第3四半期	△10.75	—
2019年4月期第3四半期	△1.06	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年4月期第3四半期	39,133	11,253	22.0
2019年4月期	39,164	11,308	23.0

(参考) 自己資本 2020年4月期第3四半期 8,605百万円 2019年4月期 9,001百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年4月期	—	0.00	—	7.00	7.00
2020年4月期	—	0.00	—		
2020年4月期（予想）				7.00	7.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2020年4月期の連結業績予想（2019年5月1日～2020年4月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	55,000	9.2	2,400	△19.5	2,300	△10.5	400	43.2	18.02

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

連結業績予想の修正については、本日（2020年3月13日）公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無  
新規 一社（社名）、除外 一社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年4月期3Q	23,414,000株	2019年4月期	23,414,000株
② 期末自己株式数	2020年4月期3Q	1,209,075株	2019年4月期	1,218,875株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年4月期3Q	22,199,816株	2019年4月期3Q	22,195,195株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 4「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（四半期決算補足説明資料及び四半期決算の概要説明の入手若しくは閲覧の方法）

- ・ 四半期決算補足説明資料は、TDnetで同日開示を行うとともに当社ウェブサイトにも掲載する予定です。
- ・ 四半期決算の概要説明は、その記録動画を当社ウェブサイトにも速やかに掲載する予定です。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)	9
(セグメント情報)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

「経営成績に関する説明」において使用する名称の正式名称及びその説明は、下記のとおりであります。

使用名称	正式名称	説明
MVNO	Mobile Virtual Network Operator	仮想移動体通信事業者
IoT	Internet of Things	モノに通信機能を持たせてモノ同士が相互通信することにより、ヒトが介在することなく自動認識や自動制御などが行える仕組み
DTI	株式会社ドリーム・トレイン・インターネット	当社連結子会社
トーンモバイル	トーンモバイル株式会社（現TMC株式会社）	2019年11月までは当社持分法適用関連会社。12月にDTIが同社全事業を承継
アドテクノロジー	Ad Technology	「テクノロジーを駆使した広告」の総称で主にインターネット広告における配信技術や広告流通の技術
DSP	Demand Side Platform	広告主の広告効果最適化を目指すプラットフォーム
SNS	Social Networking Service	インターネットを利用して社会的ネットワークを構築可能にするサービスで、ソーシャルメディアの1つ
アフィリエイト	Affiliate Marketing	Webページ等の広告を経由して、広告主のサイトで会員登録や商品購入をした場合にリンク元の媒体運営者へ報酬が支払われる仕組み
afb	アフィビー	フォービットが提供するアフィリエイトプラットフォーム
フリービットEPARKヘルスケア	株式会社フリービットEPARKヘルスケア	当社連結子会社
Health Tech	Health Technology	“健康×IT”により、ヘルスケア領域に変革を起し、次世代の健康管理メソッドを創出していくもの
エドテック/EdTech	Education Technology	“教育×IT”により、語学教育領域に変革を起し、ICTを活用して語学教育ソリューションを進化させていくもの
ICT	Information and Communication Technology	情報通信技術
アダプティブ・ラーニング	Adaptive Learning	個々の学習者の学習進捗度に合わせて最適な学習教材を最適なタイミングで提供する仕組み
アルク	株式会社アルク	当社連結子会社
AIアシスタント	Virtual AssistantやIntelligent Personal Assistantとも称される	ユーザーとの対話により、ユーザーの求める課題や仕事を実行するサービス
VDC	Virtual Data Center	データセンターの機能を仮想的に構築し、インターネット上から利用できる仕組み又はサービス
ギガプライズ	株式会社ギガプライズ	当社連結子会社
SPES	Single-Pair Ethernet Service	ギガプライズが提供する集合住宅向けISPサービスの1つ
フォービット	株式会社フォービット	当社連結子会社

当社グループは、当連結会計年度を最終年度とする中期事業方針『SiLK VISION 2020』において、2020年4月期に売上高500億円、営業利益50億円の達成を目標に掲げ事業を推進し、当第3四半期連結累計期間は、売上高が前第3四半期連結累計期間を上回る結果となりました。

インフラテック事業を展開するブロードバンド通信市場は、固定網による高速ブロードバンド環境の普及が一巡したことで、成長は緩やかなものとなりました。また、モバイル市場においては、大手モバイル通信キャリアによるサブブランド展開や新プランの発表等が、当社グループの顧客である独自型MVNOサービス事業者の成長に影響を及ぼしましたが、IoT向けの需要が増加傾向にあるため、市場規模は引き続き拡大する見込みです。当社グループにおいては、2019年12月1日付で、DTIがトーンモバイルの全事業を会社分割（吸収分割）により承継しました。

不動産テック事業を行う集合住宅向けインターネット接続サービス市場は、増税等の影響があったものの、高速インターネット接続環境導入による資産価値や入居率の向上を目的とした導入需要は引き続き堅調であり、市場規模の継続的成長が予想されています。

アドテック事業においては、アドテクノロジー関連サービスであるDSP広告サービスやSNS等の運用支援サービスの拡販に注力しました。また、独自のアフィリエイトサービス「afb」の提供や利便性の向上に尽力するとともに、グローバル版アフィリエイトプラットフォームの海外展開を開始しました。

ヘルステック事業においては、フリービットEPARKヘルスケアが中心となり、当社グループの事業リソースを最大限に活かす形で“Health Tech”分野における事業を推し進めています。

引き続き成長が見込まれる“エドテック”分野で事業を展開するエドテック事業においては、教育コンテンツのICT化やアダプティブ・ラーニング等の教育ICTプラットフォーム等が今後この市場におけるキー・サクセス・ファクターになると予想され、アルクが中心となり情報通信技術を活用した質の高い教育サービスの提供に注力しています。

以上の結果、売上高は40,060,885千円(前年同四半期比17.4%増)、営業利益は1,198,125千円(前年同四半期比26.4%減)、経常利益は1,113,778千円(前年同四半期比13.9%減)、そして親会社株主に帰属する四半期純損失は238,756千円(前年同四半期は23,549千円の損失)となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

なお、第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの区分を変更しており、以下の前年同四半期比較については、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

#### ① インフラテック事業

スマートフォンやタブレット、AIアシスタント機器などの多様なICT端末の普及に伴い、宅内Wi-Fi環境を通じたリッチコンテンツやSNSの利用増加等により固定回線網サービスの原価率は引き続き上昇傾向にあるものの、MVNO支援パッケージサービスやVDCの拡販に注力しました。また、DTIが展開するスマートフォンサービス「トーンモバイル」は、株式会社キタムラが展開するカメラのキタムラへの出店を拡大しました。今後カメラのキタムラにおける取り扱い店舗数は拡大する見込みです。

以上の結果、売上高は11,599,003千円(前年同四半期比0.8%減)、セグメント利益は432,568千円(前年同四半期比18.7%減)となりました。

#### ② 不動産テック事業

集合住宅向けインターネットサービスが順調に推移したことなどにより、売上及び利益が伸長しました。また、さらなる売上拡大を企図し、ギガプライズは新サービスとして、集合住宅向けISPサービス「SPES」及びミサワホーム株式会社が提供する集合住宅向けISPサービス「ベルリード・ネット」の提供を開始しました。

以上の結果、売上高は9,499,158千円(前年同四半期比34.2%増)、セグメント利益は829,820千円(前年同四半期は61.2%増)となりました。

#### ③ アドテック事業

アドテクノロジー関連サービスであるDSP広告や動画広告市場向けの商材を中心としたインターネット広告サービスの提供に注力するとともに、SNS等の運用広告サービスの拡販を積極的に推進しました。フォーイトが展開するアフィリエイトサービスにおいては、得意とする業界に加え、その他の業界への提供も着実に広げることによって事業規模を拡大しました。また、フォーイトは事業の海外展開を拡大しており、2018年の台湾現地法人設立に引き続きマレーシア現地法人を設立しました。そして、今後の更なる事業伸長のための投資や体制強化等も実行しました。

以上の結果、売上高は12,973,507千円(前年同四半期比6.9%増)、セグメント利益は645,432千円(前年同四半期比18.1%減)となりました。

#### ④ ヘルステック事業

お薬手帳アプリ利用者や調剤薬局向けソリューションサービス利用事業者の獲得等を企図した投資を継続したことに加え、医薬品の不動態在庫管理や薬局の生産性改善を実現するファーマシーシステム事業が立ち上がったことにより規模が大きく拡大しました。また、グループシナジーを強化し、当社のクラウド型介護記録システムはフリービットEPARKヘルスケアと連携した“お薬情報連携機能”の提供を開始しました。

以上の結果、売上高は2,418,490千円(前年同四半期比11.0%増)、セグメント損失は255,550千円(前年同四半期は238,371千円のセグメント損失)となりました。

## ⑤ エドテック事業

当事業を担うアルクの主軸となる教育向け出版事業は、第4四半期偏重型のビジネスモデルの為、日本語・第二外国語出版書籍の売上は鈍化しましたが、商戦期に向けて、フェア等の販促施策の準備や子供向け英語教育等の開発に注力しました。また、スマートスピーカー、タブレット端末及びサブスクリプション型サービスへの語学教育コンテンツの提供に注力しました。

以上の結果、売上高は3,984,321千円（前年同四半期比179.5%増）、セグメント損失は473,058千円（前年同四半期は15,888千円のセグメント利益）となりました。

なお、前年同四半期との比較における主な差異要因は、2018年9月に連結子会社化したアルクの連結対象期間が異なる（前第3四半期連結累計期間が3カ月、当第3四半期連結累計期間が9カ月）ことによるものです。

## セグメント別売上高及びセグメント損益

(単位：千円)

区分	売上高	セグメント利益 又は損失（△）
インフラテック事業	11,599,003	432,568
不動産テック事業	9,499,158	829,820
アドテック事業	12,973,507	645,432
ヘルステック事業	2,418,490	△255,550
エドテック事業	3,984,321	△473,058
調整額	△413,596	18,912
合計	40,060,885	1,198,125

## (2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は39,133,844千円となり、前連結会計年度末と比べて30,165千円減少しました。これは主として、商品及び製品が199,377千円、未収入金が1,139,825千円増加したものの、現金及び預金が1,197,466千円、受取手形及び売掛金が347,500千円減少したことによるものです。

負債合計は27,880,218千円となり、前連結会計年度末と比べて24,828千円増加しました。これは主として、未払法人税等が419,077千円減少したものの、短期借入金が391,000千円及びリース債務（固定）が226,292千円増加したことによるものです。

純資産合計は、利益剰余金が減少したこと等により、前連結会計年度末と比べて54,993千円減少の11,253,626千円となり、この結果、自己資本比率は22.0%となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

最近の業績動向を踏まえ、2019年6月14日に公表した2020年4月期の通期連結業績予想を修正いたしました。詳細については、本日（2020年3月13日）公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2019年4月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年1月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	15,458,703	14,261,236
受取手形及び売掛金	8,296,320	7,948,819
商品及び製品	820,186	1,019,563
仕掛品	297,893	221,619
原材料及び貯蔵品	47,890	199,983
未収入金	1,442,227	2,582,053
その他	1,380,867	1,756,996
貸倒引当金	△185,962	△185,038
流動資産合計	27,558,127	27,805,235
固定資産		
有形固定資産	2,924,961	2,883,189
無形固定資産		
のれん	2,534,715	2,258,786
ソフトウェア	1,486,347	1,351,084
リース資産	1,272,713	1,340,849
その他	342,016	287,031
無形固定資産合計	5,635,792	5,237,751
投資その他の資産		
投資有価証券	1,485,645	1,603,620
差入保証金	683,524	745,222
その他	1,167,588	1,122,068
貸倒引当金	△291,630	△263,243
投資その他の資産合計	3,045,127	3,207,667
固定資産合計	11,605,881	11,328,608
資産合計	39,164,009	39,133,844
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	449,292	365,500
短期借入金	309,000	700,000
1年内返済予定の長期借入金	2,013,875	2,090,238
未払金	6,606,585	6,807,379
未払法人税等	895,109	476,031
引当金	563,708	443,080
その他	2,997,248	2,760,037
流動負債合計	13,834,818	13,642,267
固定負債		
社債	3,511,000	3,411,000
長期借入金	7,310,836	7,103,175
リース債務	2,771,567	2,997,859
役員退職慰労引当金	48,736	61,427
退職給付に係る負債	63,993	65,777
その他	314,437	598,710
固定負債合計	14,020,570	14,237,950
負債合計	27,855,389	27,880,218

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2019年4月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年1月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,514,185	4,514,185
資本剰余金	3,130,556	3,130,422
利益剰余金	2,116,132	1,721,209
自己株式	△752,790	△755,511
株主資本合計	9,008,084	8,610,305
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△12,156	△13,062
為替換算調整勘定	5,815	7,884
その他の包括利益累計額合計	△6,340	△5,178
新株予約権	3,542	3,266
非支配株主持分	2,303,333	2,645,232
純資産合計	11,308,619	11,253,626
負債純資産合計	39,164,009	39,133,844

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年5月1日 至 2019年1月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年5月1日 至 2020年1月31日)
売上高	34,118,083	40,060,885
売上原価	24,453,057	28,469,905
売上総利益	9,665,025	11,590,980
販売費及び一般管理費	8,036,282	10,392,855
営業利益	1,628,743	1,198,125
営業外収益		
受取利息	1,103	651
受取配当金	6	8
受取補償金	13,683	—
違約金収入	3,371	10,140
償却債権取立益	—	12,377
債務免除益	1,031	10,830
製品保証引当金戻入額	—	15,955
事業撤退損失引当金戻入額	—	19,833
その他	13,712	17,878
営業外収益合計	32,908	87,676
営業外費用		
支払利息	92,994	122,521
持分法による投資損失	224,968	9,130
支払手数料	22,938	25,407
その他	26,588	14,963
営業外費用合計	367,489	172,023
経常利益	1,294,162	1,113,778
特別利益		
固定資産売却益	23	—
投資有価証券売却益	372	24,599
関係会社株式売却益	—	119,610
特別利益合計	395	144,209
特別損失		
減損損失	88,862	17,833
固定資産除売却損	4,117	2,312
投資有価証券評価損	—	42,610
投資有価証券売却損	—	1
関係会社株式売却損	—	6,608
製品保証関連費用	49,336	—
契約移転負担費用	—	50,000
特別損失合計	142,316	119,364
税金等調整前四半期純利益	1,152,241	1,138,623
法人税、住民税及び事業税	743,438	983,819
法人税等調整額	148,954	14,005
法人税等合計	892,393	997,825
四半期純利益	259,848	140,798
非支配株主に帰属する四半期純利益	283,398	379,554
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△23,549	△238,756

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年5月1日 至 2019年1月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年5月1日 至 2020年1月31日)
四半期純利益	259,848	140,798
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,498	△899
為替換算調整勘定	△3,950	3,631
その他の包括利益合計	△2,452	2,732
四半期包括利益	257,396	143,530
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△20,318	△237,594
非支配株主に係る四半期包括利益	277,714	381,124

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

① 連結の範囲の重要な変更

当第3四半期連結会計期間より、株式会社医療情報基盤については保有する全株式を売却したため、連結の範囲から除外しております。

② 持分法適用の範囲の重要な変更

当第3四半期連結会計期間より、トーンモバイル株式会社については保有する全株式を売却したため、持分法適用の範囲から除外しております。

(セグメント情報)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間（自 2018年5月1日 至 2019年1月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				
	インフラテック事業	不動産テック事業	アドテック事業	ヘルステック事業	エドテック事業
売上高					
外部顧客への売上高	11,606,639	6,971,820	11,935,364	2,178,990	1,425,268
セグメント間の内部売上高又は振替高	89,798	106,512	203,273	171	—
計	11,696,438	7,078,332	12,138,638	2,179,162	1,425,268
セグメント利益又は損失(△)	531,978	514,692	787,755	△238,371	15,888

(単位：千円)

	合計	調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
売上高			
外部顧客への売上高	34,118,083	—	34,118,083
セグメント間の内部売上高又は振替高	399,756	△399,756	—
計	34,517,839	△399,756	34,118,083
セグメント利益又は損失(△)	1,611,943	16,800	1,628,743

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額16,800千円には、貸倒引当金の組替額等が含まれております。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

株式会社アルクの株式を取得し連結の範囲に含めたため、報告セグメントとして「エドテック事業」を追加しております。

## II 当第3四半期連結累計期間(自2019年5月1日至2020年1月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				
	インフラテック事業	不動産テック事業	アドテック事業	ヘルステック事業	エドテック事業
売上高					
外部顧客への売上高	11,496,576	9,422,802	12,740,486	2,418,470	3,982,550
セグメント間の内部売上高又は振替高	102,427	76,355	233,021	20	1,770
計	11,599,003	9,499,158	12,973,507	2,418,490	3,984,321
セグメント利益又は損失(△)	432,568	829,820	645,432	△255,550	△473,058

(単位:千円)

	合計	調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
売上高			
外部顧客への売上高	40,060,885	—	40,060,885
セグメント間の内部売上高又は振替高	413,596	△413,596	—
計	40,474,481	△413,596	40,060,885
セグメント利益又は損失(△)	1,179,212	18,912	1,198,125

(注)1. セグメント利益又は損失(△)の調整額18,912千円には、貸倒引当金の組替額等が含まれております。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、経営上の管理区分の実態を適切に表すとともに事業内容を明瞭に表現する目的で、従来の「ブロードバンド事業」、「モバイル事業」、「アドテクノロジー事業」、「クラウド事業」及び「その他」について、「インフラテック事業」、「不動産テック事業」及び「アドテック事業」に変更し、調整額に含めていたのれん及びのれん償却額を各報告セグメントに反映する変更を行っております。「インフラテック事業」は、ISP、MVNO向け事業支援サービス、法人、個人向けインターネット接続関連サービス、モバイル通信サービス及びクラウドサービスを提供しております。「不動産テック事業」は、集合住宅向けインターネット接続関連サービス及び不動産仲介サービスを提供しております。「アドテック事業」は、法人向けインターネットマーケティング関連サービスを提供しております。「ヘルステック事業」は、薬局向けソリューションサービスを提供しております。「エドテック事業」は、個人、法人及び教育機関向け語学教育サービスを提供しております。なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、当第3四半期連結累計期間の区分に基づき作成したものを開示しております。

また、前第3四半期連結会計期間より、語学教育サービスを行う株式会社アルクを連結の範囲に含め新たな事業を開始したため、報告セグメントとして「エドテック事業」を追加しております。

各報告セグメントに反映したのれん償却額は、以下のとおりであります。

(単位:千円)

	インフラテック事業	不動産テック事業	アドテック事業	ヘルステック事業	エドテック事業
前第3四半期連結累計期間	18,149	56,486	145,851	145,327	17,649
当第3四半期連結累計期間	18,149	56,787	145,851	145,327	53,698